

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

地球上では、オリンピックをはじめ競技ごとの世界大会などが開催され、競技者や関係者、その支援者などを含め大きなマーケットとなって活況を呈しています。これをスポーツ業界と呼べば、プロとしてスポーツを行う人々は、その支援者であるファンがいなければ職業として成り立ちません。このファンがスポーツ業界を支えているのだと言えるでしょう。

どのスポーツでも熱狂的なファンというものは存在するもので、支援する個人や団体の成績に競技者とともに一喜一憂し、その試合観戦のために仕事を選び、最大限の時間を割いて応援をしています。スポーツをする側にとっては、こうしたファンは大変ありがたいものであり、大いに歓迎すべきことです。

しかし、スポーツについては、世界を操る側の人々、日本では、GHQが日本占領で行う「3S（スリーエス）政策」として、Screen（映像鑑賞）、Sport（スポーツ観戦）、Sex（性欲）を用いて大衆の関心を政治からそらす愚民化政策の一つとして知られています。

また、アダムスキーもスポーツについては、あまり推奨していないところがあります。但し、アダムスキーは、当時、野球に詳しくたとフレット・スティックリング氏は語っています。

スポーツが良くないとされるのは、個人競技であれ団体競技であれ、相手を「打ち負かす」、競技が多いことと関係していると思います。「打ち負かす」ためには、闘争心（エゴ）を強化してあらゆる努力により自己を鍛えあげます。下手をすると手段を選ばないような状況です。

精神と肉体が超一流ともなれば、邪念を超えて安定してくると思われませんが、最高点にまで達しない人々は、確かに良い感情はないのかもしれない。熱狂的に観戦する側も、その個人の行うべき人生なのか、熱狂的歓喜などはエゴの発露ではないのかなど疑義が残ります。

スポーツ競技は、資本主義社会あるいは競争原理に合致していると思います。地球的なスポーツは、SPには必要ないものですが、地球人には、成長のために必要であり、そこから何を学んだのかを理解しつつ、燃えすぎず、勝敗にこだわり過ぎないことが大切なのだと思います。

「言葉に注目」

< このレッスンにおいて(地球の)人間は失敗しました >

『第2惑星からの地球訪問者』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

この言葉は、アダムスキーが土星の母船に乗船した際、マスターから話された内容の一部です。この前段に庭園の美しい花々を人間に例え、背の高い花低い花、様々な色は全体の喜びであり、芳香を含めて最高者への奉仕であると語っています。また、万物は他に奉仕することによって自己に栄光を与える。万物は与えてであり受け出ると言っています。

この生き方に地球人は、失敗したと語っているのです。資本主義社会にも問題はありますが、その活用者であるはずの人間が、それに使われ貪欲になって、自己の利益ばかりを求める生き方。商い（あきない）と言われた日本の商売が、ビジネスとなり、明らかにおかしくなっています。絶対者を背骨とした利他的精神、それが求められているのだと思います。

「生命の科学」学習のポイントPart106

今回は、レクチャー11「宇宙空間の探検」の『想像を絶する土星、金星、火星の実態』。初めに、「他の惑星へ旅する前に、ここでひとつ遠隔透視といわれる状態を取り上げてみましょう。」と書いています。これにより“意識による旅行”と“遠隔透視”は別であると理解されます。この現象が起こると映像が見えることから、心は周囲に関心を持たなくなると言います。「これは意識がもたらす映像に心が関心を持つため」です。「第2惑星からの地球訪問者」を読んでその人が持つ高揚感は、同じく心と意識の結合状態であると語っています。

ここからアダムスキーが体験した土星、金星の状況と意識の旅行による火星の状況について書いています。

土星については、“空が地球の空とわずかに違う”、“土星の輪のために青色が少し乳白色を帯びている”、“それはまるで息がつかまるような美しさ”、“建物は・・・空の青味かった乳白色を反射”、“自分が以前よりも別人になったような気がします”、“あらゆる人がこちらを見透すようで・・・だれもが自分の一部であるような気がします”などと書いています。

金星については、“ときたま雲が切れて日光が差し込む”、“空気は湿潤ですが重苦しくはありません”、“多数の協力者から成る政府が一つ”、“金星も万物を一体に結束する宇宙的な愛を表しています”などと伝えています。

火星については、“商業と産業が盛ん”、“ほとんど乾地農法”、“水は極冠や溶ける氷結地帯から水路で引かれ”、“塩分が豊富”、“人口急増”などと説明しています。

これらのことから、それぞれが意識による旅行により確認して欲しいということでしょう。詳細は不明ですが、遠隔透視により映像を見ながら、そこに入り込むように同調すると“意識による旅行”ができるのではないかと推察されます。まずは、試みることでしょう。

宇宙に“生きる”

<名言格言編106>

“末ついに海となるべき山水も しばし木の葉の下くぐるなり”

これは、江戸中期の歌人、伴蒿蹊（ばんこうけい）の作で、田中角栄元総理が好きな言葉として、色紙に書いては若者へ配っていたと言われています。山は海の恋人と言われ、山水は正にこの詩のとおりの動きですが、田中元総理が自分の生き方に重ねていたものと思います。



Q：チャネリングは良いことか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：精神世界の話として、チャネリングと言って高次元の存在や宇宙人とコンタクトするというものがあります。テレパシー能力が高い人が行う場合や、そうでもないものなどいろいろあるようです。浮かれることなく、正当なアダムスキー解釈を軸に対応した方が良いと思います。

書物紹介

『エゴを抑える』 ライアン・ホリデイ 著 パンローリング株式会社

著者は、アメリカのメディア戦略家であり作家です。本書では次のように書いています。「私たちは、モノゴトがうまくいかない原因は外部の世界にあると思いがちだ。お金がないとか上司に恵まれていないとか運が悪いとか。しかし実際は私たちの内部に潜むエゴこそが、最大の障害なのである。」と。その実例を著名人の言葉や行動などから拾い上げ、書物としたものです。エゴのコントロールの重要性を説いた、その点ではまれな良書だと思います。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2024年7月20日（土）、11月9日（土）、2025年2月22日（土）午後1時30分より台東区民会館第1会議室。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

私は、暇が好きではないようで、何時も忙しくしてしまいます。それも善し悪しのようです。当会のHPも、毎回お読みください。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第106号>

発行日 令和6年7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

G・アダムスキーによれば、彼ら進歩した異星人（ここでは金星人）は、新生児について“創造主から与えられた贈り物”として、“その想念のパターン”を知るために愛情深く育てられるのだという。そして、彼らは新生児から多くのことを学ぶのだと言っています。

これには、どのような意味があるのでしょうか？ 新生児を“創造主からの贈り物”というのは、地球上でも言われていることです。これには色々な意味があると思われませんが、おそらく自分たち自身では“コントロールできない”という意味が大きいように思います。

異星人の場合は、今の自分たちにとって前進していくための贈り物、幸せの源としてとらえているように思います。

そこで、“新生児の想念パターンを知る”というのは重要なことなのだと思います。それは、新生児と言えども魂は、その誕生から、その後の過去世の経験を持っています。そこで新生児の魂の誕生から今日までの生きた軌跡、これからどのようにになりたいのか（役割）、を読み解くことなのだと思います。それを知って、育てていくということです。これは大切なことですが、地球上では全く行われていないことです。

さらに重要なところは、彼らは“新生児から多くを学ぶ”ということです。新生児の肉体は、父母の遺伝的な特性を有しています。しかし、父母の肉体的な経験や知識は引き継がれません。つまり、新生児の原子群は経験を持っているものの、細胞としては未経験なもので、これから経験を積んでいく部分です。魂についても、基本的に父母とは別物です。この時の魂は、ストレスのない器に入り、創造された時のように輝いているのではないのでしょうか。

このため異星の父母は、魂の誕生時や過去世の経験を追体験し、そこから多くを学び得るのだらうと思います。こうした行為は、創造主の“宇宙の計画”への想いや、各人の関わり方を確認する貴重な機会となっているのではないのでしょうか。私たちも、雑念のない新生児から多くを学びとれるよう謙虚に生きていきたいものです。

“言葉に注目”

< われわれは地球を幼稚園にたとえてよいだろう >

『UFOの謎』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

この言葉は、「地球は一種の幼稚園」と題するところで書かれているものです。その説明として次のように書いています。「そこでは多くの個性を持った幼児が勉強したり遊んだりしている。ここには生意気なのや喧嘩好きなのや、臆病なの、内向的ななのや外交的なもの、我慢強いものや短気なの、親切なのや意地悪なのがいる。そしてこれら各個人が互いに調和しあうことを教えるのが幼稚園の課題の目的である。こんなふうにして自己抑制ができるようになり、団体としての調整がうまく行く。」しかし、これがうまく行っていないので、自己抑制ができず、幼稚園児が“ダイナマイトをもって遊んでいる”と言われるのだと思います。改めて、アダムスキーが伝えた、感覚器官のコントロールが最重要であると思わずにはいられません。

「生命の科学」学習のポイントPart107

今回は、レクチャー11「宇宙空間の探検」の『意識による空間の旅行』です。

まず、次のように書いています。「・・・意識が自分に洩らしてくれる物事を心が信頼するならば、人間は意識によって空間を旅行することができます。」そして、このことを知らないで何度も宇宙旅行をする人がいる、時には睡眠中に起こると書いています。

私たちは、“宇宙の意識＝意識”について、何度も読んでいますし、それぞれに理解イメージしていると思います。そこに対する信頼を持っていると思われれます。アダムスキーは、“意識が洩らしてくれる物事を心が信頼するならば”、“空間を旅することができる”と書いています。私たちが、意識に全幅の信頼を寄せていると思っても、空間を旅行できないとすると、意識を信頼していないということになるかもしれません。あるいは、その心の在り方に問題があるのかもしれません。

仮に、睡眠中に宇宙旅行などをしていたとすると、次のようにも考えられます。覚醒時は、心が雑念を持っているので、周囲を気にしたりしてしまうが、睡眠中には心は大方解放されるので意識に反応しやすいということです。

次に、意識を信頼できるよう重要なことを言っています。「・・・意識とはそのなかに万物が生きている生命の大海である・・・。その大海の外には生命はありません。」ということです。これを強く認識すれば、その中で生きる人間（自分）は、その海を頼らなければならなくなるということです。確かにその通りです。これに気づくと、海の活動のさまざまな面と、海を通じて表れているさまざまな物に関する知識を心に印象づけるようになるということです。これは大海中の魚が、水中を伝わってくる大嵐に気づくようなものだと言います。こうして宇宙からの印象を感じるようになると、人間は、思う場所へ行くことができるということです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編107>

“総好かんを食う（そうすかんをくう）”

この言葉は、ときどき耳にすることがあります。この“総好かん”は、文字のとおり、すべてから好まれていないのです。つまり、周りの人々から嫌われているのです。子供時代だけではなく、大人社会にあってもあまりに自分勝手であると、このようなことになるようです。



Q：転生は証明できる？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：最近、転生についての書物を目にするようになりました。一部の科学者も研究を始めているようです。各自でその可能性を感じることもあっても、科学的に証明となると先の話だと思います。しかし、各自の中で否定できないものもあると思います。まずは、それでよいかと。

書物紹介

『安倍晋三回顧録』 安倍晋三 著 中央公論新社

著者は、言わずと知れた元総理大臣です。本書は、橋本五郎氏と尾山宏氏が、安倍総理の退任後、1年をかけて行ったインタビューを文章に起こしたものです。安倍元総理については、熱烈に支援する人と、強かに批判する人の双方が存在します。これは、安倍元総理が批判する報道機関が、良くないことばかり宣伝することと重なります。しかし、本書は、安倍元総理の人柄や世界観、自国愛など多くのことを読み解くことができる、良書であると思います。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2024年11月9日（土）、2025年2月22日（土）、5月10日（土）午後1時30分より台東区民会館第1会議室。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

今回は、大変に多忙で、発行時期を読み誤り時がすでに来ていて慌てて書いたものです。退職しても暇ではない。良いことではあります。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第107号>

発行日 令和6年9月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

絶対的な「善」は、存在するのでしょうか？ 絶対的な「善」とは、誰によっても否定されない「ありてあるもの」と言えると思います。それは「神」と呼べるものだと考えます。

絶対的な「善」とは、因の世界のものであり、宇宙という結果の世界には存在しないものと考えています。宇宙の中には、善とその対立としての悪が存在すると見なされています。

では、因の世界に絶対的な「悪」が存在するののかということ、それは違います。そのようなものではなく、「ありてあるもの」を、ここでは「善」と呼んでいるということです。仮に、絶対的な「善」が存在しないとすると、因の世界が無秩序となり、その結果物である宇宙そのものが存在できなくなります。このように思考することは、大変重要なことです。この絶対的な「善」というのは、万物の基準、あるいは指針と呼べるもので、そのようなものが因の世界には存在するというのです。これを肯定しなければ、人間としての生の一步を踏み出せないと考えられます。アダムスキーが語る「宇宙の意識」を信頼せよというのは、正にこのことにあたります。

これを認め宇宙の法則を理解し、人として成長すると人類の未来が見えてくるのだと思います。この生き方が正しいことの証左として、近隣惑星の人々は素晴らしい発展をとげているのです。その彼らは、さらに進んだ人々から学んでるというように、無限に成長への道が示されているのです。一方、これを認めていない私たちの世界は、中途半端な世界と言わざるを得ません。

宇宙の意識に従うことは、自由を損なうと考える人々がいます。そこが理解されない理由です。最近、知ったことですが、「自由」についてヘブライ大学の著名な教授は、次のように言っていたということです。「自由＝フリーダム」の語源は、出エジプト記にあって「神の摂理に従う」という意味だということです。つまり、先に書いた絶対的な「善」（宇宙の意識）に従うということです。これがエゴから解放された、真の自由なのです。

私たちの世界は、相対的世界ですが、そこに絶対的な基準を導入する必要があるようです。その基準を私たちは、アダムスキーより教えられていますので大変幸福なのだと思います。

「言葉に注目」

< 重病人を治した例を二つあげましょう >

『金星・土星探訪記』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

これは、1963年5月における講演後の質疑応答で、「異星人の地球人への援助」についての質問に応えたものです。一つ目は、パイロットが全身マヒにかかっている、車いすに座って歩けない状態であったという。異星人に治して欲しいとアダムスキーが頼まれ、それを異星人に伝えたら三か月以内に回復したということです。二つ目は、歩くことも見ることもできない六歳になる少女を助けてくれと異星人に頼んだら、六か月後に少女は全く普通の状態に回復したということです。アダムスキーは、「彼らは病気を治せない」と言っているところもありますが、後半では、このようなこともしていたようです。2千年も前から、このようなことをしていたと考えさせる事例であると思います。

「生命の科学」学習のポイントPart108

今回は、レクチャー11「宇宙空間の探検」の『遠隔指導の実例』です。

ここでアダムスキーは、自分の体験について書いています。1930年代に一人の研究者が病気で会合に出られなくなりましたが、次の週の会合で、その人は「出席できなかったけれどもあなたの指導を受けた」と語ったということです。これについてアダムスキーは、多数の人を指導していながら、一方では病人のところへ行っていたという解釈となるようです。これは、「一個のマイクロホンを使用して二個のスピーカーから放送するのと同じです。」と書いています。これを一箇所で肉体、他の場所で想念体と表現しています。

この想念体について、「影が肉体的な現れであるように、人間は意識の想念的な現れです。」と書いています。それで、肉体があるところに留まりながらも、意識の影である人間は、想念体として他の場所へ送ることができるということのようです。

さらに、アダムスキーがパサデナで講演していたとき、「病気の友人を救ってやってくれ」と依頼され、講演をしながら同時にその人を快方へ向かわせたということです。こうした病人ばかりではなく、数多くのトラブルを除いた経験があるということです。

これらのことは、アダムスキーが睡眠中に起こることはなく、何らかの仕事を行っているときに発生しているので、これは意識による旅行であると言っています。しかし、本人は、他のところへ、想念を向けているという自覚はないように読み取れます。ここは、自然体で行われているということのようです。

しかし、このような体験は、UFO問題に興味を奪われてから無くなってしまったということです。これを「二人の主人に同時に使えることはできない」と言っています。そうすると、日常にさらされる多くの人々は、相当努力をしないと難しいということになるかもしれません。

宇宙に“生きる”

<名言格言編108>

“心の欲するところに従えども矩(のり)を踰(こ)えず、”

これは、論語の一説で有名な言葉です。晩年孔子が自己を振り返って語ったもので、70歳にしてやっと、この境地、心のままに生きてもやりすぎない状況になったということです。これは、エゴと意識の一体化を意味しているのだと思われます。



Q：異星人にも色々？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：当然に様々な種族の人たちがいるでしょう。アダムスキーがコンタクトしたのは、旧約聖書につながる中心的な人々です。その人々により、地球人といいい加減な接触がないよう宇宙的な統制がとられているようです。グレイ系の異星人は、誤解を含め別のもののようです。

書物紹介

『書いてはいけない 日本経済墜落の真相』 森永 卓郎 著 (株)三五館シンシャ

本書は、「ザイム真理教」に続く現状を打破するための告白本です。著者によるとメディアには絶対に触れてはいけないタブーが3つあるという。1 ジャニーズの性加害、2 財務省のカルト的財政緊縮主義、3 日本航空123便の墜落事件、ということです。1つ目はすでに知られるようになり、2つ目はすでに書物としているものです。今回は、それらを踏まえ3つ目について書いているものです。これが、あまりにも驚愕な話で・・・しかし、真実かもしれない。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2024年11月9日(土)、2025年2月22日(土)、5月10日(土)午後1時30分より台東区民会館第1会議室。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

なかなか多忙なのですが、なんとか予定通りに進めることができました。やはり計画的に行動しないとうまくゆかないものです。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第108号>

発行日 令和6年11月10日

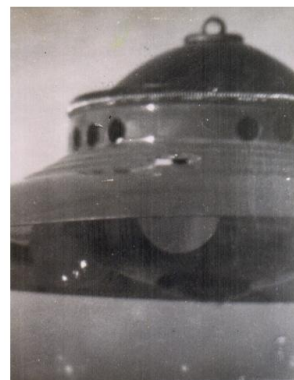
編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

私たちは、自分で自分を創造したのではありません。従って、その創造者の意向に従うことが求められます。では、どのように生きればよいのでしょうか？

人々に見えるように良きことを行う人は人々に喜ばれ尊敬されます。人々に見えないところで良きことを行う人は人々に知られず無視されます。人々に見えるように悪いことを行う人は、人々に恨まれ罰を受けます。人々に見えないところで悪いことを行う人は人々に知られず無視されます。ならば、「人々に見えるように良きことを行い、人々に見えないように悪いことを行う」これが人生訓となります。少し分析すると、「良き事」には大きく2つあるということです。

1つは、心（エゴ）が喜ぶこと。2つ目は、魂（宇宙の意識＝創造主）が喜ぶことです。心であっても、これにより他者に迷惑がかからないのであれば、喜ぶことは良いことであると言えるでしょう。また、「悪い事」というのは、「良き事」とは逆で、心や魂を悲しませることと解釈してよいと思います。

そこで、前段の言のポイントは、人の行為で良き事にせよ悪い事にせよ他者が知っているか否かにあります。つまり、他者の評価になるかどうかということです。ここで、このような考えが浮かびます。人々に見えないところで良き事を行っている人は何の評価もされないのか？

人々が知らないのですから、その評価はありません。その個人が、自らを高めるための修行として行っているようにも見えます。ただ、それだけでしょうか？ 原子が記憶を保つように、様々な出来事はすべて創造者の中に保管されていると考えるのが合理的です。これが、記録の書です。見えないように行う良き事も、見えないところの悪事も、すべて記録されているはずで

そこには、その時の感情も記録されているでしょう。そしてその評価者は、他者ではなく、行為者の心と魂の相関関係で自ら判断されるのだと考えられます。さらに、次のように言えると思います。「人々の心を喜ばせる人は、人々に支持される」、「人々の魂を喜ばせる人は、創造主に支持される」ということです。これを知り生きることは大切なのだと思います。

言葉に注目

< マテオ大統領は進化した他の惑星・・・理想的社会の出現を要望してそれを公然と説いた >

『金星・土星探訪記』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

これは、メキシコのサンホセプルアで行われた他の惑星人たちとの会議に関連して、アダムスキーが語ったことです。正確には、「マテオ大統領は進化した他の惑星に存在するような理想的社会の出現を要望してそれを公然と説いた唯一の人です。」というものです。

アダムスキーは、メキシコのマテオ大統領が、異星人とコンタクトしていても驚かないと語っていますが、その可能性は高いものと思います。これに関連して、アダムスキーは、「多数の国の指導者もコンタクトしている」と言っていますが、これらも事実であると思われます。しかし、残念ながら現段階では、異星人を肯定する人々が沈静している状況です。これらは反対勢力の影響でしょうが、今後、これらがどうなるのか楽しみなところです。

「生命の科学」学習のポイントPart109

今回は、レクチャー11「宇宙空間の探検」の『心霊は関係ない』です。

前段では、今まで述べてきたことは人間の内奥の能力であり、心霊主義とは何の関係もないと語っています。そして、人類の99%は、自分の意識の能力に気づかないで振り回されていると言います。続けて、「心に頼っていたのでは一箇所につなぎとめられ・・・」と書いています。

また、自分が講演の際に他のところにも行ったことに触れ、「意識によって私が求められた場所へ行きました。」としています。そして、「意識は永久的な面にありますが、心は生命の変化する面にあります。心は新たに学ぼうとするために常に変化しています・・・。」と書いています。これは、意識は変化のない永続的な意識界にあり、心は、移りゆく現実界にあることを言っているものです。加えて、心は変化する現実界、物理的世界において学ぼうと自ら変化していることを伝えています。これが、心の役割なのだと思います。この心の特性こそが、意識から学ぶ際の足かせになることが想像されます。

次に、トランスとはいったい何か？ として、これは、指導霊によるのではなく、テレパシー開発中に起こることで、「あなたの意識的な自我が意識の部分を見るときに、このようなフィーリングを起こすのです。」と述べています。つまり、心が意識と通じて意識を感じる時（意識的意識）とも言えると思います。この意識は、初めの頃はとぎれとぎれで来るのだと言います。

最後に、「水がノズルからほとばしり出るとそれはさまざまな大きさや形の無数の水滴となって分離します。」と言い、「宇宙の意識の流れもホースの中の水と同様です。」としています。ノズルから出る水を宇宙の意識に例えて、ほとばしる意識の一つ一つは、大きさが異なりさまざまだが、結局その後はつながりあってホース内の状況と同じになる。意識は、万物を生かすために自らを分離して、必要なものを授けていると言っているようです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編109>

” 綺羅星の如し（きらぼしのごとし） ”

夜空にきらきらと輝く星のように、華やかなものが数多く並んでいる様子を言います。また、人に対しても使い、立派な人が大勢、華やかに居並ぶ様子を指します。最近、街中では、夜空の星が綺麗に見えませんが、暗いところへ行くと綺羅星の如しの意味が分かるようです。



Q：地球上に長く住んでいる異星人もいますか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：コンタクトマンのように、地球に短期間いる異星人もいますが、世代を超えて住んでいる異星人もいるようです。その人々は、役割があるものの地球人となっていますので、風貌や寿命なども地球人と変わらないのではないかと想像しています。

書物紹介

『軍産複合体（自衛隊と防衛産業のリアル）』 桜林 美佐 著 新潮新書

著者は、アナウンサーやディレクターとしても活躍され、現在は、防衛産業研究の第一人者となっています。著者によると産軍複合体は国防の基盤であるとされ、日本ではピント外れの議論ばかりされているという。これは、アイゼンハワー元大統領の退任演説での発現も影響しているようです。軍事力があってこそ抑止力があるとの立場で、その装備品の国内開発・製造の重要性を唱えています。しかし、法を含め現状での問題点の多さに驚かされます。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2025年2月22日（土）、5月10日（土）、8月23日（土）午後1時30分より台東区民会館第1会議室。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

まずは、発行できてホッとしています。師走となり色々とお世話になりました。緩やかな気持ちで新年を迎えたいと思います。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第109号>

発行日 令和7年1月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

アダムスキーは、私たちに何を伝えたのでしょうか？ 改めて考えてみると、重要な点は次のところだと思います。

1 宇宙には偉大な意識体が存在する。 2 宇宙には法則が存在する。 3 人体に魂（意識）と心（エゴ）が存在している。 4 宇宙は人の住み家として創造されている。 5 人は転生を繰り返すが制限がある。

それぞれ補足すると、1については、宇宙は、単なる物質ではなく意識的な力や英知が存在することを伝えています。そしてそれは、これあれかしと願う指向性を持っていることを示しています。従って万物は、その意向に沿うことを教えているのです。

2は、宇宙は、宇宙の意識により創造されたこと。そこには物理的な法則が存在し、宇宙の秩序を保っています。それらの探究は、宇宙の意識の意向を知ることにつながります。

3では、地球人は魂（意識）と心（エゴ）が分離していることを伝えています。心を魂に近づけ、その意向に従うことの大切さを教えています。

4については、宇宙に存在する惑星や衛星などは、人が住めるように創造されている。人は、一惑星にとどまるものではなく、広大な宇宙を探求することを促しています。

5は、人は肉体の死をもって終わらず、魂は、地球だけではなく転生することを伝えています。そして、エゴ中心で生きながら自己の役割を顧みず転生を繰り返すと、15回ほどで、過去の記憶が消去され初めの一步から始まることを知らせています。

これらは総じて仏陀やイエスの教えと同じであると理解しています。なぜなら仏あるいは天または神が、宇宙に存在することを伝えているからです。そして人は、自由気ままに生きることは可能だが、転生に制限を設けることで背後に意思があることを伝えているのです。

これらは大変重要かつ貴重なことで、他の惑星の英知ある人々が、生きる指針を持たない地球人へ真理の贈り物をくれたのだと思います。

“言葉に注目”

< 彼らの多くがこの地球上でスペースプログラムにもとづいて各国政府を援助している… >

『UFO・人間・宇宙』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

これはアダムスキーが、1965年にニューヨークで行った講演で語ったことです。彼らとは、スペースピープルのことですが、これに続いて「・・・ことなどはもはやファンタスティックなことでも何でもなく、単なる事実なのです。」と言っています。

スペースピープルが、スペースプログラムに基づいて各国政府を援助しているのは、当然なことなのだと語っているのです。それにしても、そのような話を耳にすることはありません。しかも、これは既に半世紀以上前のことなのです。おそらく彼らからの要求もあり、それを善しとしない勢力によるものと思います。但し、彼らの影響は、身近な家電製品に生かされているようです。例えば、電子レンジやエアコンなどは、そうした製品であると思われる。

「生命の科学」学習のポイントPart110

今回は、レクチャー11「宇宙空間の探検」の『真のトランスとはどのような状態か』です。

はじめに“宇宙の父”と“宇宙の母”は、創造物を決して見捨てないと言います。人間が、このことを理解しないと神秘家がするように不可思議な現象に名称をつけたがると語ります。

そして、イエスの“変容の山”の話になります。ここでイエスは心の意志を意識の意志にゆずりわたし、イエスの顔はかつての個々の容貌を表しました。これを見た弟子たちは、モーセその他の顔が現れたと語ります。イエスは、「私の生命は多数の人の生命である」と答えます。これをアダムスキーは、イエスは、様々の人々の生涯（過去世）を経てきたと説明し、これは意識が彼のスクリーン上に再演したとしています。

そして、「もしあなたが自分の誕生日にまでさかのぼろうとする場合、・・・あなたの意識が自分がこれまで経てきたさまざまな発達段階や体験類を心に伝えるのです。そのために容貌の変化が現れるわけです。」と説明しています。このことをイエスは、弟子の前でやったのだと言っています。これが唯一の真のトランスであるということです。世間で言われるのは、単なる幻影、希望的観測、自己催眠などであると警鐘を鳴らしています。「だからこそ聖書では自分の前に偽りの神を持つな」と言っているということです。

イエスの語った「私がこの世の人間ならばそれと戦うけれども、私はこの世の者ではない」を引用し、「彼は“父の家”には多くの住み家があることを明言しています。」と語り、「しかし現象としての人間の心が記録の保持者である意識に従属しないかぎり、このことを知ることはできません。」と教えています。

そして、次のように言っています。「それが達成できると“啓示”はやってくるのです。」続けて、意識の指導に学ぶことを力説しています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編110>

“機に因りて法を説け（きによりてほうをとけ）”

“人を見て法を説け”という類似の言葉があります。こちらは、聞く者の性質や才能、心理や時期をよく考えて、この辺は同じなのですが、最も良い機会をとらえて導けという教えです。また、臨機応変に対応するという意味もあるようです。



Q：月や火星へ自由に行けるの？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：彼ら異星人が、他の太陽系に移住したことから月や惑星への進出を了解しているようです。但し、近隣の惑星は、人工的なものは極力現状復帰され、廃墟のようになっているようです。しかし、タイタンなど衛星映像には、ボカシが入って人工的な建物が見えるように思います。

書物紹介

『覚醒の日米史観』 渡辺惣樹、ジェイソン・モーガン 著 徳間書店

本書は、著者の対談を書物としたものです。渡辺氏は、日米近代史研究家であり関連著作で知られています。一方のモーガン氏は、アメリカのルイジアナ州生まれで麗澤大学准教授です。アメリカの南北戦争の悲惨さや、戦後のアメリカの日本統治のあり方など様々な問題点が語られています。特に、秘密裏に月2回、日米合同委員会が行われ事実上の米国の支配が行われていることや、ディープステートの正体などが語られています。なかなか激しい内容です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2025年5月10日（土）、8月23日（土）、11月8日（土）午後1時30分より台東区民会館第1会議室。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

余裕をもって編集していますが、毎回、後半は忙しくなります。うっかりしてしまうからですが、完成するとホッとします。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第110号>

発行日 令和7年3月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）